

ロシアが侵攻したウクライナから広島に逃れた人や、内戦状態が続くミャンマーを離れた若者たちが運営するカフェが27日、広島市東区光が丘の高台にオープンする。支援を受ける関係から「共に生きる隣人」へ。そんな思いを込めて、母国の料理や音楽でもてなす。
(梁暁雨)



戦災の避難者 輝くカフェに ウクライナやミャンマー人運営27日開業



「カフェ・ソサエティ」と名付け、国際交流拠点だった民間施設「広島アジア文化会館」(2001年閉館)として使われていた建物内で営業する。ピーツを使ったウクライナのホルシチや、カレー味の肉煮込みといったミャンマーの家庭料理を提供。台湾料理や瀬戸内の魚を使ったランチプレートも用意する。

働くのは、22年5月にウクライナ東部ドニプロ近郊から避難するまでカフェを営んでいた夫婦や、ミャンマー留学生たちだ。ミャンマーではクーデターで誕生した軍事政権と抵抗する勢力との内戦が続くなど、

アコーディオン演奏を聞きながら試作した料理を味見する広瀬さん(左から2人目)たち

広島市東区 母国の料理・音楽でもてなし

いずれも国内外に多くの避難民が出ているという。

「苦境でも前向きで、同情されることに抵抗感を持つ人は多い」。難民支援団体カウんセラーの広瀬ケイナさん(36)は南区では交流する中でそう感じ、カフェ営業を企画した。日本の行政は衣食住の支援を重視し、「文化的な社会生活に目が向けられていない。地域の一員として暮らすため、自分らしさを發揮できる場所が必要だ」と強調する。

「ウクライナに興味を持つきっかけにしてほしい」と願う夫婦の夫はアコーディオン奏者で現地の民謡を披露。伝統衣装で接客するミャンマー出身の歡啓大3年2年リントンテさん(27)は「祖国の発展に尽くすためにも広島で学び、ミャンマーの現状と文化を伝えたい」と力を込める。

当面は金、土曜の午前11時〜午後5時半に営業する。水、日曜に営業する場合もある。☎090(2070)52286。